

今月の逸品



これまでの品揃えを大切にしながらも、ラベルがステキだったり、季節を感じるワインなど、見て楽しい、飲んでおいしい、そして、飲んだ後にちよつと詳しく知りたくなる、そんな新しい発見に会えるようなワインをご紹介します。

※20歳以上の年齢であることを確認できない場合には酒類を販売しません。

古典の味わい

豊かな酸とタンニンが脂肪の多い肉料理を求める

今月の一品

ピノ・ノワール ハウス・クロスターベルク

[タイプ] ロゼ・辛口 [収穫年] 2021年

[生産地] ドイツ モーゼル地方

[生産者] マーカス・モリトール

[品 種] ピノ・ノワール

750ml ¥3,300 税込

ドイツ最高峰の生産者（エゴン・ミュラーやJ.J.プリュム）と品質の面で全く引けを取らない、新時代の生産者マーカス・モリトール。マーカスは1984年、若干20歳という若さで両親からワイナリーを引き継ぎ、2010年代以降から頭角を現してきた。さまざまなスタイル（辛口・甘口・貴腐・赤ワイン）のワインがいずれも卓越している。ことにヴィノム誌のブラインド・テイスティングでドイツのピノ・ノワール第一位を獲得するなど数々の高評価を受けている。さらにピノ・ノワールのアロマを活かしたロゼワインは秀逸。澄んで輝きがあるサーモンピンク、ラズベリーやグロゼイユのアロマ、舌先にピリッとした触感と甘み、ブラッドオレンジのような果実味が口中に広がる。どんな食事にも合わせやすい。

春は桜、夏は夕日、秋は紅葉、冬はキャンドルとともに！

キアンティ・クラッシコ

[タイプ] 赤・辛口 [収穫年] 2018年

[生産地] イタリア トスカーナ州

[生産者] サン・ジュスト・ア・レンテンナーノ

[品 種] サンジョヴェーゼ80%以上、カナイオーロ20%以下

750ml ¥7,370 税込

15世紀以来「キアンティ」という地名は、北はフィレンツェから南はシエナまでの広大な地域を指す。広がり続けるキアンティの呼称に対抗し、古くからの伝統的領域としてキアンティ・クラッシコの呼称が認められた。その生産条件は、より厳しく、より高品質である。サン・ジュスト・ア・レンテンナーノは、1100年代のシトー派修道院が起源という歴史のあるワイナリー。現在、マルティーニ・ディ・チガラ家が受け継いでいる。標高270mの畑からサンジョヴェーゼとカナイオーロ種を手摘み収穫。大樽やオーク樽で12ヶ月間熟成後、瓶熟成させた。マラスキーノチェリー、プラム、カカオ、燻製、なめし革などのさまざまな香りにスパイスやエスプレッソのような風味と滋味が口中に広がる。まさにクラッシコ（古典）の味わい。

色を超えた、味のロゼ



幸運なことに、歌手MISIAさんのコンサートチケットがとれた。「いつも頑張っている妻の息抜きになれば」という想いが届いたのだろうか。会場がある博多を観光後、コンサート会場へ向かった。1万2千人収容の福岡アリーナは満席だ。売店も長蛇の列だ。トイレ入口から人が溢れている。集客や設営から運営まで多くの人が関わっていることが伝わってくる。しかしながら、ひとりの存在でこれだけの影響力があるとは。ここに至るまで長い道のりだったのだろうと共感してしまう。彼女自身が作詞した「果てなく続くストーリー」は、私の様々な迷いを吹き飛ばしてくれた。これを生で聴ける感動を隠し切れない。単に「歌声がきれいとか、上手い」とかでは表現できないCDの音源を超えた世界があった。信じてもらえないと思うが、耳を通して肋骨の内側からピンピンと響いてくる。圧巻、全身全霊、超一流、本物・・・残念ながらひと言では簡単に表現できない。根底にファンを大切にするサービス精神があるのだろうか。おかげさまでエネルギーを充電できた。現地のワインショップでバイヤー仲間にも再会できた。明日からまた頑張れそうだ。それにしても・・・終了後、離席しようにも「放心状態で腰が立たん」。MISIA恐るべし!

Column

「果てなく続くストーリー」

エグゼクティブソムリエ
貞森 一之



【スタッフリレー通信】

ワインは素晴らしい!

広島アンデルセンソムリエ
沼田 賢壮

お客様からお子さまの生まれ年のワインを2本購入したいと相談があった。なぜ2本なのだろう。しかも同じ種類のワイン。その応えに感動した。「子どもが生まれた。子どもが成人した時にこのワインを飲んでほしいが、その時には僕の父はもうこの世にいないかもしれない。だから、今日父と一緒に子どもが大きくなったときのことをイメージしながらこのワインを飲みたいと思っている。そして、今日の僕と父の姿を写真に残し、子どもが成人したときにこの写真を見ながら僕と子どもでもう1本のワインを開ける。これが僕の夢です」なんてステキなのだろう。きっとワインも熟成が進み、味わいの変化が楽しめるが、それだけではない。お子さまの成長やこれまでの思い出が詰まった、かけがえのない1本になる。今回選んだのは、ナポレオンが愛したフランス ブルゴーニュ地方 ジュヴレ・シャンベルタン村のワイン。香り豊かで酸味が強く、しっかりとした骨格のワインのため、熟成させるとより深みができる。お客様がブルゴーニュのワインをよく買われていたこともあり選んだ。ただ味わうだけでなく、時(とき)や世代を繋いでくれるワインは素晴らしい!と改めて感じた出来事だった。

※「スタッフリレー通信」は3月号をもって終了いたします。

ANDERSEN
HIROSHIMA

エグゼクティブソムリエによる
日常の出来事を綴ったコラムと
広島アンデルセンのスタッフが、
リレー形式でワインにまつわるお話
をご紹介します。

